

①テーマ

外国人向けの防災イベントを開催！

②アイデアのイメージ

熱田区では年に2～3回防災・避難訓練を行っている。しかし外国人のための防災・避難訓練は行っていない。多様な言語・バックグラウンドを持つ外国人向けの防災イベントも行うべきである。

問題点

- ① 南海トラフ地震が起きたら、熱田区も被害を受ける。
- ② 世帯数と人口の調査によると熱田区には約2,200人の外国人が住んでいる。しかし外国人向けの防災イベントがない。



☆事前の準備が必要☆

<http://www.city.nagoya.jp/atsuma/cmsfiles/content/0000037/37301/30setaisuutojinkou.pdf> 参考

解決策

熱田区に住む外国人を対象にした防災イベントを、名古屋学院大学の教室で、名古屋学院大学の学生のサポートにより、行う。



メリット

- 熱田区にお住いの外国人が安心して暮らせるようになる。
- ⇒外国人にも暮らしやすい町づくり
- 地震時の迅速な対応ができるようになる。
- 休日に行くことで、平日に仕事が忙しい外国人でも参加できる。



もし南海トラフが起きたら...

南海トラフが起きた時、熱田区は津波の影響を受けると予想されている。日本語がわからない外国人にとって、緊急時に迅速に行動することは難しい。地震発生時はたくさんの方がインターネットを使うためサーバーが混み合い、携帯は使い物にならない。日本語を話せない外国人は助けを求めにくい。外国人は避難が遅れてしまう。

http://www.city.nagoya.jp/bosaikikikanri/cmsfiles/content/0000112/112331/2018tm_01_map2.pdf 参考



内容

- 消防団の人を講師に招き、外国人に地震発生時の適切な行動や対処法を教える。
- 地震発生前の事前準備、ハザードマップや避難場所の確認などを行う。
- 避難所体験をする。

デメリット

& 対策

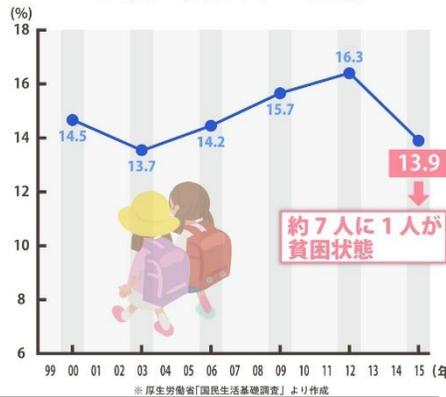
- たくさんの言語に対応する必要がある。
- ⇒名古屋学院大学の学生や留学生の協力を得て、多様な言語に対応する。
- 参加メンバーを集める必要がある。
- 日本語以外のチラシ・パンフレットを作成、駅やスーパーで配布する。

③アイデアの特徴・メリット

アイデアの特徴は、外国人を対象とした防災・避難訓練の実施にある。消防団の人を講師として招き、名古屋学院大学の学生や留学生のサポートによりそれを分かりやすく外国人に伝えることができる。外国人向けの防災・避難訓練を行うことで、地震時に日本語を話せない外国人でも迅速に行動することができ、遅れずに避難することができる。このような取り組みにより、外国人にとって熱田区が安心・安全な暮らしやすい町になることが期待できる。

②アイデアのイメージ

子供の貧困率の推移

子ども食堂とは？

地域住民や自治体が主体となって無料or低料金で子どもに食事を提供する**コミュニティの場**のこと。

現在熱田区では0歳～14歳の子供が約6600人生活しているが熱田区に子ども食堂は一つしかない。そこで名古屋学院大学の食堂などを生かし低料金で子ども食堂の提供場所として利用する方法を提案！

問題点

- 子供の貧困の「見えにくさ」
- 親や子供の「貧困」との自覚がない
- 周囲の目を気にして助けを求めない
- 地域の目が行き届かない→社会からの孤立

解決策・メリット

- 料金が安くて栄養満点のご飯を子供が食べられる
- 名古屋学院大学を子ども食堂の場所として提供
- 体育館などの施設利用で子供が一日楽しめる
- 学生も子供たちとふれあい、交流する機会になる

図のように子供の約7人に1人が貧困状態である。問題点として子供の貧困の「見えにくさ」・貧困の自覚がない・周囲の目を気にしているなどの問題点があると考え、そこで私は名古屋学院大学子ども食堂を開催することを考えた。まず名古屋学院大学は大きな食堂や設備の整った場所である。そこでプロジェクター設備のある教室での映画鑑賞会や図書館での本の読み聞かせなど様々なイベントを行うことができるため、普通の子ども食堂に加えて学生主催のイベントにより一日中楽しめる満足度の高いコンテンツを提供することが可能である。

③アイデアの特徴・メリット

このアイデアの最大の特徴は学生が子ども食堂の活動を主体的に行うことができる点である。大学には様々な施設があり、貧困に喘いでいる子供たちにとっては大学は夢のような空間であると考えられる。また大学は休日も開放されているので親御さんの負担を減らすことも可能だ。休日であれば学生による学校の設備を十分に生かした企画も行うことができ学生に対してもプラスになる素晴らしい経験になることは間違いない。

①テーマ

銭湯無料開放で注目のエリア熱田区へ!



Here we go!

②アイデアのイメージ

提言内容(問題点と解決策)

歴史的価値

問題点 熱田区は熱田神宮や歴史的価値のある堀川があるにも関わらず、**観光客が少ない**

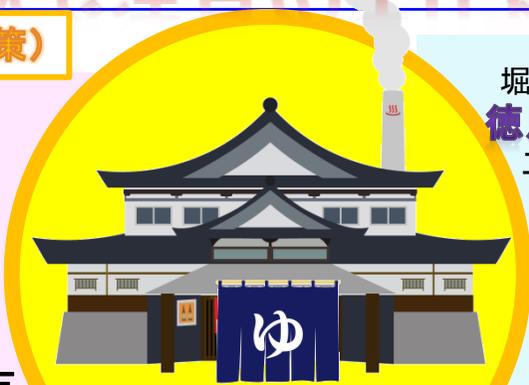
解決策 堀川の浄化活動を通して、熱田区の見どころや良さを世界へアピール

堀川・浄化方法

銭湯の無料開放と石鹸シャンプー配布
生活排水を「汚さない」「削減する」

メリット

- 環境保護
- 観光客の増加
- 地域住民のコミュニティー強化



堀川開削は慶長十五年頃と言われており、**徳川家康**が**福島正則**に命じました。**名古屋城**の築城工事に使用する木曽材の運搬、および名古屋城下町の建設に伴う物資の運搬が当初の目的でした。堀川は元は水源を持たない川でしたが、藩政時代に御用水(現在の水道にあたる)を**河村瑞賢**が建設し、これによりいくらかの流れができました。末吉(2000)その後、明治初期からは庄内川水系に属する形となっています。

江戸時代の堀川は様々な魚がすみフナや蜆は食用にされ、水泳も十分できる水質であった。◆堀川はなぜ汚れたか。
<http://mesai.ucoo.jp/reki/kawa/zem/hokawa/nazayogreta/hokawa/nazayogreta.htm> 2019年7月17日参照

江戸時代の水質はきれいだった!



近代~現代

近代における堀川は80年以上続く「浄化作戦」の歴史とも言えます。堀川は下水道の放流先になり、やがてヘドロが溜り「死せる川」とまで言われるほど汚染が進みました。戦後は、大名古屋港河川清掃衛生組合連合会ができ、堀川左岸の雨水滞水池の稼働と、川沿いの名城水処理センターでも新しい濾過施設の完成をめざし、堀川の水をよりきれいにする取り組みがなされています。朝日新聞DIGITAL(2019) 『堀川に戻ってきた魚たち』 オイカワ、カマツカ、タモロコ、コイ、ギンブナ、ボラ、カダヤシ

◆図書 末吉順治(2000)『名古屋開府四百年 堀川沿革誌』

◆朝日新聞DIGITAL.生き物あふれる きれいな川へ. <http://www.asahi.com/area/aichi/articles/MTW20190122241680009.html> 2019年6月18日参照

◆名古屋市役所.堀川にすむ魚. <http://www.city.nagoya.jp/ryokuseidoboku/page/0000014452.html> 2019年6月18日参照

③アイデアの特徴・メリット

この提案のメリットは3つあります。①環境保護。②観光客の増加。③地域のコミュニティー強化。

①・②については、堀川の浄化活動を通し、その歴史的価値や、熱田区の魅力と併せて世界へ情報を発信すれば、より多くの人々の注目を集め、結果として観光客の増加が期待できます。また環境問題は、全世界が関心を持っている事の一つであり、FacebookやInstagramなどのSNSを利用すれば、活動開始から比較的長期間に渡って、取り組みを紹介する事ができます。また③に関しては、地域住民が銭湯を日常的に利用することによって、会話が生まれ、地域のコミュニティーが強化されます。住民同士のそうしたコミュニケーションは、観光客が訪れた際にも温かく受け入れられるような地域性を育むはずで、熱田区は名古屋市にありながら、自然も多く魅力的な地域です。是非多くの人にその良さを感じてもらい、訪れてほしいです。

提出者

外国語 学部 担当 西村 美保 先生

学籍番号/氏名

丹羽 智恵子

2019年度 優秀賞